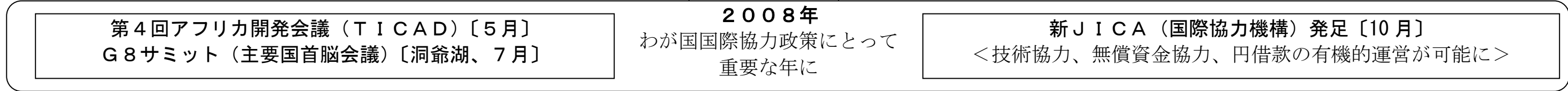


わが国国際協力政策に対する提言と新 J I C A への期待

2007年5月15日
(社) 日本経済団体連合会

＜わが国の国際協力の現状＞
10年連続でODA予算が削減され、わが国の対外影響力の低下を懸念
アンタイド化などODA事業推進環境の悪化と民間企業の関心低下
こうした中、「海外経済協力会議」の発足（06年5月）、新 J B I C ・新 J I C A の発足が正式決定



わが国国際協力政策に対する提言

- (1) 経済成長に資する援助、担い手としての民間の重要性**
 - ・途上国の自立的経済発展を促す「顔の見える援助」。経済・社会インフラ重視の援助
 - ・民間企業が持続的にODAに関与できるよう制度の見直し（アンタイド化など）
- (2) ODAの事業量拡大と円借款返済金の有効活用**
 - ・国際社会に対し、将来的にODAの事業量を拡充するという明確なメッセージの発信
- (3) 資源・エネルギー確保と地球環境問題解決に資する援助**
 - ・資源・エネルギー確保と地球環境問題解決のためにODAを柔軟に活用
- (4) 国際社会の一員としてのアフリカ支援の取り組み**
 - ・アジアでの開発経験をベースに、アフリカにも経済成長重視の援助を適用
- (5) 経済連携強化のためのODAの活用**
 - ・途上国とのEPA締結促進のためにODAを積極的に活用
- (6) 国際機関を通じた多国間援助の活用**
 - ・わが国の援助理念・政策の有効性を訴え、日本企業が活躍する場を拡大
- (7) 国際社会におけるわが国援助政策の理解の促進**
 - ・アジアの経済発展に果たしてきたわが国援助政策の有効性の主張

新 J I C A への期待

- (1) 円借款事業の形成から実施までの期間半減**
 - ① 優良案件の発掘・形成のための体制整備**
 - ・新 J I C A と経団連の「定期協議会」設置
 - ② 開発調査の円借款プロセスへの統合**
 - ・開発調査を円借款プロセスの第一歩と位置づけ、調査予算の拡充と調査の迅速化
 - ③ 要請受付時期の通年化**
 - ・途上国からの要請受付時期を通年化し、案件採択を通年化。ファストトラック案件は別枠で
 - ④ プログラム単位での業務フローの実現**
 - ・地域別組織編成、業務フロー統一化により、プログラム単位での案件実施を可能に
 - ⑤ 進捗管理の合理化・弾力化**
 - ⑥ 内部統制の強化と透明性の確保**
- (2) ドル建て・現地通貨建て借款の創設**
- (3) STEPの拡充と部分無償化**
 - ・STEP（本邦技術活用条件：タイド円借款）の対象分野拡大と部分無償化による採択案件拡大
- (4) 無償資金協力の適切なリスク分担**
 - ・民間に過度なリスクを負わせる仕組みを改め、予備費計上や実施期限弾力化も可能に
- (5) 民間の貿易・投資を促す技術協力の推進**
- (6) PPP（官民パートナーシップ）の推進と円借款の新商品開発**
- (7) 新 J B I C*やNEXI**等との連携強化**

*日本政策金融公庫の国際金融部門としての国際協力銀行 **日本貿易保険